

心配なミンダナオ情勢

－ 7月訪問は延期しました －

日本でも報道されたように、5月3日にジェネラルサントスの漁港と市役所で爆発による死傷者がでました。

この町には、訪問時に利用する空港があり、市街地にはCMBの本部もあります。現地ではその後も、マーベルと結ぶハイウェイでのバスジャックや、6月23日には市内6ヶ所での同時連続爆破事件も起きました。

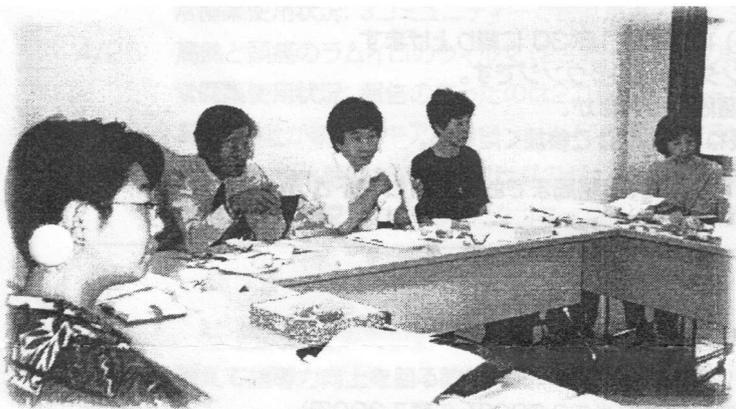
ミンダナオでは、1996年9月に、当時のラモス政権と、ミスアリ議長率いるモロ民族解放戦線（MNLF）との間で和平が成立した後も、これを不服とする二つのイスラム分離派勢力（アブサヤフとモロイスラム解放戦線 MILF）が、軍資金目当ての誘拐事件を起こしたり、政府軍との間で小競り合いを続けていました。

ミンダナオ南西部（マギンダナオなど4州からなるモロミンダナオ自治地域 ARMM が含まれます。ARMMの知事はミスアリ氏）に限られていたこの紛争の影響が、このところ当会支援地域周辺にも拡大したため、会員6名で実施予定だった7月中旬のコミュニティー訪問およびプロジェクト関連のスタッフ出張を見合わせました。

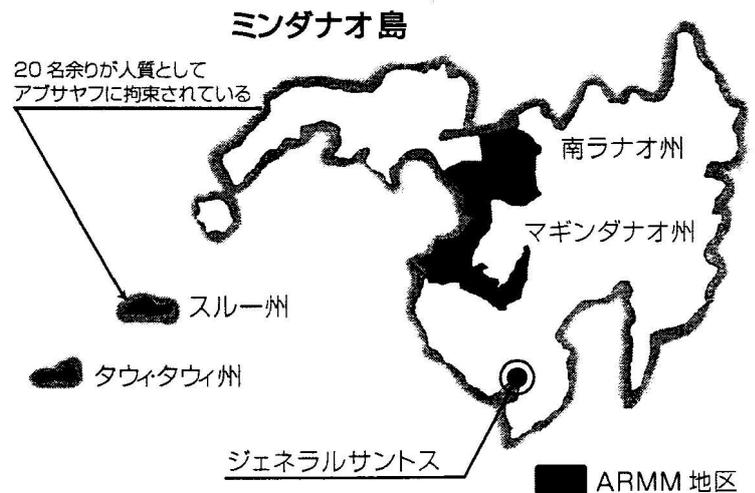
7月10日前後に、政府軍は MILF の最大基地（アバカル）の制圧を宣言しました。しかし、これはイスラム分離派の武力闘争の根源にある少数派イスラム民族の問題解決にはならないので、むしろテロ活動が激しくなるともいわれています。

ミンダナオのイスラム教徒（Bangsa Moro 13部族）もピラーン族などの Lumad Mindanao 18部族と同じく、ミンダナオの先住者でありながら、ともに今は少数派（過去数十年間の入植者の増加で、ミンダナオもキリスト教徒が多数を占める）として、社会的、政治的、経済的弱者の立場にあります。一方で、民衆レベルでは、イスラムとキリスト教徒は共存を望んでいるようです。私たちの活動もこのようなミンダナオ問題の政治的歴史的背景を考慮にいれて、今後とも慎重に進めていきたいと考えています。

（事務局・山崎）



（定款審議中の法人設立総会）



—平成12年度総会・NPO法人設立総会無事終了—

法人認証申請書は今2ヶ月間の縦覧中です

平成12年度総会は、会員11名のご出席をいただき（はがき委任44通を加えて定数充足）、予定通り6月17日に開催されました。前半は、任意団体としての平成12年度総会で、昨年度の事業報告、決算報告を審議・承認をいただき、後半はNPO法人設立総会に移行して、設立趣意書、定款、法人成立後の事業計画、予算案等の審議、承認をいただきました。

設立総会の前後あわせて4回、県庁に足を運び、県民活動促進班の担当者のご指導をいただき、設立総会議事録を含む申請書を提出。7月10日付けで正式に受理されました。

今後2ヶ月間の縦覧期間を経て認証となれば、法務局での登記手続を経て法人成立となります。

総会案内でご説明させていただきましたように、NPO法人（特定非営利活動法人）化後も、活動内容は、「任意団体」の現在とほとんど変わりませんが、皆様のご協力をいただき、これまで以上に社会的責任を果たせるように、意義ある活動を心がけたいと思います。よろしく願いいたします。

（事務局・担当甲斐、森田、山崎）